

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5 年 3 月 30 日

公表: 令和 5 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘豊橋

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	○		広々と開放的なスペースが確保されている。 机で集中して遊びたい子もいるので、体を動かしたい子は戸外遊びへ誘っている。	
	2	○		1人1人の子どもにゆったり関われるような職員配置ができています。	
	3	○			
	4	○		清潔で心地よい空間が毎日維持されている。 片付けなどはその子に合った方法で一緒に行っている。 机など必要がない時は隅に寄せている。	
業務改善	5	○			
	6	○			いただいたご意見、集計等を職員間で把握、検討をし、業務改善につなげていきます。
	7	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	8		○		現在外部評価は受けていないので、今後検討します。
	9	○		様々な研修に参加していて、いろいろな形の療育のあり方を学ぶことができていると感じる。 積極的に参加している。 機会があればいろいろな研修を受けたい。	今後も職員が受けたい研修にできる限り参加できるように、勤務の調整等行っていきます。
適切な支援の提供	10	○			
	11	○			標準化されたアセスメントツールよりも、目の前の子ども一人ひとりの発達や特性を重視した支援をしています。
	12	○			
	13	○			
	14	○		職員それぞれが意見を持ち寄って、みんなでより良いものにしてほしいという思いで行っている。	
	15	○		いつも違う活動をしていろいろな経験ができています。	予め活動プログラムを設定していても、その時々の子どもの様子や興味を大切に、柔軟に変更する場合があります。
	16	○		今後も個々や状況に合ったいろいろな活動をしていきたい。	
17	○		パートの職員にも事前に伝えてもらっているので、スムーズに活動の準備に参加することができる。 支援の内容の確認については不十分な点もあると感じるので改善していきたい。 やりたい遊び(活動)などを打ち合わせで伝えるようにしている。	子どもの利用状況等に関しては、クラウドサービスを利用して前日には職員に周知しています。(希望が丘こども園に在園している利用児に関しては、希望が丘こども園の職員にも。)支援の内容に関しては支援開始前までには打ち合わせをするようにしていますが、よりよくできる部分もあると思うので、時間の捻出など工夫をしたいと思います。	

関係機関や保護者との連携	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日気になった事の共有、気になる子への関わり方の共通認識など話し合う事ができていた。みんなで共有する時間が充実することで、明日の支援が更により良いものとなると実感している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を取ることで自分自身の対応(支援)の振り返りとなっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			希望の丘に通いながら就園をする利用児に対して、就園先のこども園に希望の丘での様子等を伝え情報共有や相互理解を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	△		児童発達支援管理責任者が行っている。	全利用児の就学先の学校と情報共有をすることはできていないため、今後できる限り行っていきたいと思っています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年に数回だが研修を受けている。今後も研修を受けていきたい。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		希望が丘こども園との交流の機会は十分に確保できていると感じる。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		年に3回ほど開催されるこども通所支援事業所連絡会には参加をさせてもらっています。自立支援協議会は機会があれば参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		事業所と家庭でのそれぞれの様子を共有出来ていると感じる。送迎の際に話すようにしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	△	○	日頃の会話の中で困りごとなどの相談があった場合、対応について提案したり考え方や捉え方を一緒に考えたりして対応している。	プログラムとしての支援は行っていません。必要な方へはその都度一緒に考えたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		毎日利用児の様子を伝えると共に、保護者との会話を密にしていると感じる。 悩みや相談の内容に応じた提案などを話している。 日頃の会話の中で困りごとなどの相談があった場合、対応について提案したり考え方や捉え方を一緒に考えたりして対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親子参加のイベントを開催している。 土曜日開所のイベントを親子参加にすることで、保護者同士の連携を図っている。	保護者の方から、保護者だけで集まる機会を作ってほしいという提案がありましたので、今後検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報等はないものの、お知らせボードやクラウドサービスで行事等を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			見学はいつでも受け入れを行っていますが、事業所の行事への招待等については行っていませんので、今後検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時はいつくるのか分からないので、しっかり話し合いをしておく。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		行っているが、定期的に職員間で共通認識として共有したい。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		給食前に必ず職員間で声を出して、除去のあるなしを確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			職員の目に毎日触れる所へ掲示しています。 利用児の変化と共に定期的に内容の確認・更新をしていきたいと思っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	△	現時点では児童発達支援計画に記載している該当児はいない。	身体拘束に関する認識の確認を、職員同士で定期的に行います。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。